

別紙標準様式（第6条関係）

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回枚方市青少年問題協議会	
開催日時	令和4年9月27日	開始時刻 10時00分 終了時刻 12時05分
開催場所	第3分館（旧市民会館）3階 第3会議室	
出席者	会長：飯田委員 委員：荒委員、池田委員、栗村委員、寺島委員、野澤委員、 長谷川委員、平岡委員、山中委員、山本委員、渡辺委員	
欠席者	花房委員、平井委員	
案 件 名	<b>【案件】</b> (1) 「枚方市子ども・若者育成計画」の進捗状況について (2) ひきこもり・不登校等に関するアンケート調査結果について (3) (仮称) 第3次枚方市子ども・若者育成計画の素案について	
提出された資料等の名称	資料1 枚方市子ども・若者育成計画【改定版】令和3年度進行管理報告書（案） 資料2-1 ひきこもり・不登校等に関するアンケート調査概要 資料2-2 枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センターを利用している若者へのアンケート調査概要 資料3 「(仮称) 第3次子ども・若者育成計画～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～」(素案) 参考資料1 ひきこもり等子ども・若者相談支援センター 枚方市子ども・若者支援地域協議会 令和3年度の活動報告 参考資料2 ひきこもり・不登校等に関するアンケート 参考資料3 ひきこもり等地域支援ネットワーク会議における意見 参考資料4 「(仮称) 第3次子ども・若者育成計画」策定に向けてのスケジュール 参考資料5 枚方市青少年問題協議会 委員名簿	

決 定 事 項	<p>1. 「枚方市子ども・若者育成計画」の進捗状況について説明を受け、委員から出された意見を踏まえ、計画に基づき引き続き各施策の取り組みを進めることを確認した。</p> <p>2. ひきこもり・不登校等に関するアンケート調査結果について報告を受けた。</p> <p>3. (仮称)第3次枚方市子ども・若者育成計画の骨子案について説明を受け、委員から出された意見を踏まえ、引き続き計画の策定に向け事務を進めることを確認した。</p>
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	0人
所管部署 (事務局)	枚方市役所 子ども未来部 子ども青少年政策課

審 議 内 容	
飯田会長	<p>定刻となりましたので、ただ今より、「令和4年度第2回枚方市青少年問題協議会」を開催いたします。</p> <p>それでは、早速ですが、事務局から本日の委員の方の出席状況の確認及びこのたび委員の交代があったということですので、御紹介も併せてお願いしたいと思っております。</p>
事務局	<p>皆様、おはようございます。</p> <p>本日もどうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日の委員の皆様の出席状況でございますが、出席委員は11名で、「枚方市青少年問題協議会条例」第5条第2項の規定に基づき、本協議会が成立していることを御報告申し上げます。</p> <p>続きまして、このたび、新たに委員に就任された方を御紹介させていただきます。</p> <p>川元大生委員に替わり、新たに御就任いただきました、枚方市青少年育成指導員連絡協議会副会長の寺島正彦委員でございます。</p>
寺島委員	<p>寺島です。よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>なお、本日の会議につきましては、前回と同様に、会議録を作成させていただきます。記載の内容の正確性を期すため、補助的に会議内容を録音させていただいておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>前回の6月に開催させていただきました協議会では、「第3次枚方市子ども・若者育成計画の骨子案」と「ひきこもり・不登校等に関するアンケート調査」について、御審議いただいたことと思っております。</p> <p>本日は、「現行計画の進捗状況」、「アンケート調査結果の報告」、「(仮称)第3次枚方市子ども・若者育成計画」の素案につきまして、事務局から説明を受ける予定としております。</p> <p>案件が多数となっておりますが、12時までを予定しており</p>

事務局	<p>ますので、スムーズな進行に御協力の程よろしくお願いたします。</p> <p>それでは早速ですが、案件の審議に入っていきたいと思ます。</p> <p>まず、事務局から資料の確認をいただきまして、続けて、案件1、「枚方市子ども・若者育成計画」の進捗状況について説明をお願いいたしたいと思ます。</p> <p>それでは、次第に記載の案件に基づき、資料の御確認をお願いいたします。</p> <p>案件1に関する資料として資料1、案件2に関する資料として資料2-1から2-2まで、案件3に関する資料として資料3を、そして、参考資料が1から5までとなっております。資料が多数ございますが、過不足等はございませんでしょうか。大丈夫でございますでしょうか。</p> <p>そのほか、お手元のバインダーのほうに、関係資料としまして、現行の計画やこれまでの協議会の資料や会議録のほか、関係例規等をまとめてございますので、必要に応じて御参照願いたします。</p> <p>それでは、案件1につきまして、担当から説明させていただきます。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">＜説明＞案件1</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま、事務局から、案件（1）について説明をしていただきました。これまでの説明について、御質問、御意見などがございましたらお願いいたします。</p> <p>委員の先生方のほうで、何か御質問や御意見はございましたら、どうぞ。</p>
山本委員	<p>少し動きが見えないところがあります。ホームページで紹介します、何々をしますと言って、情報を提供しているということですが、それが果たして本当にそういうしんどい家庭に、伝わっているのかなというのがちょっと見えないですね。具体的にどういうアウトリーチ型というか、積極的な働きかけをされているのかなというところをお聞きしたいと思ます。学校</p>

	<p>でもそうなのですけど、どこに問題があるかという、いろいろあるんですけど、その家庭がそれを意識していない場合もあるのです。</p> <p>だから、それが見過ごされるというか、北河内の別の隣の市で、ずっと20年か30年か閉じ込めていたという事件がありました。ああいうことになりかねないのじゃないかなというように家庭もあって、それがネットワークの中で把握して、そこに市として、あるいは市だけじゃなくてもいいのですけれど、いろんな形で働きかけというのがされているのかなというのをお聞きしたいです。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>事務局でお答えいただけますか。</p>
事務局	<p>情報を届けて、それを確実にキャッチしていただくというのは、本当に課題で、難しいところです。そういったことは、やり続けているところではあります。</p> <p>実際のところ、情報発信にも段階があるなと感じてまして、まずは全体への周知、市民への周知というのはひとつの段階としてあるなというところで支援をしています。</p> <p>その次に、もう一步踏み込んで、必要としている方にもそうですし、ご家庭が意識されていない場合でも子どもさんの存在としては、つながっていかねばならないという部分に関しては、現時点では相談ケースを通して支援をするということになるのかなと思います。</p> <p>相談に来ていただいた方であるとか、あと、関係機関がつながっている御家庭に対して、その関係機関の方と連携、相談しながら、そのケースに対して個別にどうしていくかというところを一緒に考えていくというところは、少しずつですがケースとしては、積みあがってきているかなと思っています。</p> <p>例えば、コミュニティソーシャルワーカーの方が、ケースの中で、困難な御家庭の状況をつかんでおられることが多いです。ので、いきいきネット相談支援センターとの連携であるとか、市役所でいったら健康福祉総合相談課との連携によって、地域の中で担当さんがつかんでおられる、難しい状態の御家庭のケースへの支援というのが、進んでいるところかなというふうには思っております。</p>

飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>よろしいですか。コミュニティソーシャルワーカーの充実強化というところで、地域で困難家庭をいつでもケアできているといいなと思います。</p> <p>そのほか何か、気にされていることを言っていたら構いませんけれどいかがでしょうか。</p> <p>一言ずつ言っただけませんか。今、山本委員から言っただきましたので、お隣の山中委員、一言あればお願いしたいと思います。</p>
山中委員	<p>学校に勤めている中で、ひきこもりや不登校の子は、現実にはいます。一番思うのは、その子どもを学校にいかに来させるかという表現は、最近はないと思います。その中で、親御さんの存在は、非常に大きいです。そことにかく学校現場がつながっていくか。そういう中で、相談機関であるとか、地域の民生委員さんであるとか、つながりをたくさん持って、つながりを持っていくというのが、前回も同じことを言ったかもしれないですが、感じているところです。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に、不登校で全欠に近いような子は、ひきこもりに近い状況にありますので、そういう子が卒業するときに、早く福祉につなげていくというのが、すごく課題だと思います、ありがとうございます。</p> <p>では、平岡委員、お願いいたします。</p>
平岡委員	<p>21 ページの少し上のところに、コロナ禍において不登校の生徒が小学校・中学校で増加したと見られるとあります。</p> <p>本校、枚方高校においても不登校の生徒はやや増加の傾向にあります。もちろん不登校というのは決して望ましい状況ではありませんが、今までちょっと無理をしていた生徒が、このコロナを理由にといえは語弊があるかもしれませんが、学校に来なくなった、正直に自分のしんどさを示したのではないかなと思える部分があります。</p> <p>ひきこもりの御家庭の思いなどを考えますと、今は社会が、社会の話を出すと広がってしまうのですけれど、ルールに</p>

	<p>乗っていないと、マジョリティの立場に立っていないと、全否定されてしまうような風潮や意識があるのではないかと思うのです。</p> <p>もちろん、不登校は望ましい状況ではありませんが、それで生徒が一定の心の安寧を得るのであれば、そういう状況そのものを受け止めてやらないといけないのではないかと、私はコロナ禍以降、一層考えるようになりました。</p> <p>本校の場合は高校ですので単位認定がありますから、出席日数が足りないと、いわゆる原級留め置きになってしまいますが、ただ、無理をさせて、非常にしんどい思いのところ登校刺激を与えるよりは、今その子の状況そのものを受け止めて、じゃあどうしたら楽になるのか、どうやったらあなたの才能や能力が発揮できるのかということ、寄り添うように考えていくべきかと思えます。もちろん、入学した生徒を全員卒業させたいのですけれども、ある意味もう少し生徒の多様性のような部分に、まなざしを向けないといけないのかなと思いはじめています。</p> <p>ですから、多様性などについて理解を示し、周りの大人がこういう仕事があり、こういう人生設計ができるよというようなものを示さないと、保護者も本人も辛いと思います。結局ひきこもりが長期化するの、きちんと学校に行けなかった、あるいは社会に出なかったということについて、親や周囲に非常に恥ずかしいことであつたり、あつてはならないという思いがあり、存在を隠されたり、先ほどお話に出た、閉じ込めてしまったというようなケースについてもそういう部分があつたかのではないかと思います。不登校や引きこもりについては事実を受け止めて、どのように寄り添って支援していくかという、次の段階を考えないといけなくなっています。簡単に、行政でできることではないのですけれども、でも多様性ということについては、とても必要な視点ではないかなと感じております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>貴重な御意見をいただいたかけなと思います。</p> <p>長谷川委員、お願いいたします。</p>
飯田会長	
長谷川委員	不登校、ひきこもりを警察で取り扱うことは、なかなかないこ

<p>飯田会長</p> <p>事務局</p>	<p>とですけれども、先ほどお話のあった監禁だとか、そういうところにつながったり、暴力につながったりということがあれば、事件化します。あと、不登校であれば、非行に走るというところがありますので、そういうところで対応していくというところもあります。</p> <p>不登校から非行に走れば、継続支援で立ち直らせたり、あと、趣味等の場を設けて、やりがいを持って更生してもらうというような取組を警察として行っています。</p> <p>こういういろんな取組をしてもなお、改善されなければ、家庭から隔離して、鑑別所なりで鑑別してもらう、性格を矯正したり、ひどい場合は少年院、そういうふうにつながっていくというところでは、なかなか改善が難しい家庭もあると思います。</p> <p>警察に囑託のスクールサポーターという方がいまして、各中学校を回って、いろんな情報が上がってくるのですが、なかなか不登校の状態というだけで、警察が入るのは難しいところもあるのですけれども、そういう子どもが後々に非行を犯すという流れもありますので、引き続き情報共有しながら、警察のできることを進めていきたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>皆さんに御意見をいただきたいところではありますが、今日は最後に計画の素案の案件もありますので、次の案件以降で、他の先生方にお話をいただこうと思うのですが、まだお話をいただいてない方で、これは言っておきたいということがございませんか。いかがでしょうか。</p> <p>では、またこれ以降の案件で、御意見をいただけたらと思います。</p> <p>では、次の案件へと入っていききたいと思います。また、お気付きの点がございましたら、次の案件の説明の時にも御質問や御意見をいただいて構いませんのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、続きまして、案件2「ひきこもり・不登校等に関するアンケート調査結果について」、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">＜説明＞案件2</p>
------------------------	--



<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま、事務局から、案件（２）について説明をしていただきましたが、ここまでの説明につきまして、御質問などがあればお願いいたします。</p> <p>池田委員、お願いいたします。</p>
<p>池田委員</p>	<p>先ほど御説明いただいたこのアンケートの中で、ひきこもりと不登校が、一緒のカテゴリーで、まとめてこの中に入っていると考えてもよろしいでしょうか。割合みたいなものはあるのでしょうか。</p> <p>不登校と言いますと基本的に学校とのつながりがあり、登校されていないとはいえ、籍はあります。</p> <p>ひきこもりというのは、年齢もすぐばらばらですし、親御さんの経済状況とかいろんなそれぞれの状況があり、多種というか、一括りにしにくいのかなというようにところを考えますと、まず一括りでアンケートを取って、それを分析することの正確性が気になりました。</p> <p>あとは、このアンケート自体、今、支援のテーブルに乗っておられる方に対するアンケートということだと思うのですが、その中で見てみますと、なぜこういう支援を知ったのかというところを見ると、知人の方が圧倒的に多いということでした。冒頭に事務局からも説明がありましたけれど、今後こういう支援に乗せるためにどういう広報を、まずは全体的な周知が来て、次の段階で少し細かい対応をしていくという、こういうお話があったと思いますが、これは大きな課題なのかなと思いました。</p> <p>それと、そもそも趣旨で言いますと、本当に困っている方に情報が届いて、新しくテーブルに乗ってもらうための仕組みと、このアンケートからどのように読み取っていくとか。知人が一番多いので、コミュニティを中心にまくのかとか、ホームページに掲載しても、あまり反響がないとか、分析の元になるのかなと思います。</p> <p>今後、アンケートを取られるのであれば、そういった観点も含めて取っていただいたほうがいいのかと思います。</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>

事務局	<p>御回答いただけるところは、御回答いただけますでしょうか。</p> <p>アンケートについてなのですけれども、実際ひきこもり等というところでご照会をさせていただいているところで、不登校の方についても回答されています。特に家族会のアンケートについては、57 の回答がございまして、不登校経験もありましたかというふうな形で確認させていただきましたら、46 が不登校経験ありということで、80%以上の方が不登校経験があるというふうな形になっております。</p> <p>実際の回答年齢層から言えば、今現在、学校に通っているという方よりも、もうちょっと年齢の高いひきこもりの方がというふうな形になってくるのですけれども、実際にそういう方も、不登校の経験があるということで、不登校経験者へのアプローチというのは、ひきこもり予防のために大切なことかなと考えております。</p> <p>今回のアンケートで、御家族の心の安定が間接的に、本人支援につながるというようなことは、すごくよく分かるアンケート結果であったということと、あと、内容的には学校への情報提供を求めるような声も大きかったので、この計画の中で学校への働きかけとか、学校との連携というふうなところを、充実していかないといけないというところを感じました。</p> <p>まだ、つながっていない方を、いかにつなげるかというところは大事かなと思っております。今回、このアンケートの結果で、相談機関につながったりする中で、おっしゃっていただいたように、友人・知人からの情報提供というのが一番多かった。このことも踏まえまして、次の計画は、素案で御説明させていただきますけれども、情報発信というところは、強化していきたいなというふうに考えています。次の素案でも説明しますが、オンラインを活用するだとか、SNSを活用するだとかそういったところで、まずは市民への方への全体的な発信というところで皆さんに知っていただいて、そういうひきこもっている子どもさんがいる家庭があったときに、こういう相談先があるよということを伝えていただけるように、まずは市民の方への全体的な情報発信というところを強化していきたいなというふうに考えています。この中で、どういった情報発信が有効かということ进行分析しながら、そこは随時いい方法を考えなが</p>
-----	---

<p>飯田会長</p>	<p>らやっていきたいと考えております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今、言っていただいたように、市民全体への発信という、全体を広く視野を持った支援と、委員の方にいただいたご意見で、個を意識した支援の、両方ともが必要になるのだろうなということ、議論いただいている中で感じました。</p> <p>まだ、御発言いただけていない先生方もいらっしゃるのですが、この調査結果も、次の素案に入っておりますので、素案の報告をいただいて、全体で皆さんに御意見をいただく形がいいかなと思うのですが、今、もう少しこれを述べておきたいということがございましたら、おっしゃっていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>寺島委員</p>	<p>調査結果の中で、前回、平成 29 年度に調査されたということの結果から、回答の内容として、年齢的にスライドしたように思うのです。そこについて、前回と同じ方ではないかと思うのですが、年齢がスライドした、延びた中での調査内容と、前回とを比較したときに、どういう形で変化があるかなというところも、次の取組にも関わると思うので、そこもまた分析していただければと思います。</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>御意見としていただいてよろしいですか。</p> <p>貴重なデータでもあると思うので、本人の意見とかもありますので、そういう今いただいた意見も含めて、分析していただけたらというふうに思います。</p> <p>では、今日の大きな課題であります、「(仮称)第3次枚方市子ども・若者育成計画の素案について」、説明をいただけたらと思います。</p> <p>そこについて、また今のアンケート結果も含めて、後ほど御意見をいただくことも可能ですので、よろしく願いいたします。</p> <p>では、説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>&lt;説明&gt;案件3</p>

飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず、御意見、御質問がおありの方がいらっしゃいましたらお願いいたしたいと思います。</p>
荒委員	<p>この問題ですね、最初の部分でアンケートの結果等が報告されたのですが、特にひきこもりの方が高齢化してきている。この会議の名称が、「青少年問題協議会」という名称なのですが。どこまでの年齢の方をこの中で協議、皆さんとお話していくのか、ちょっとその辺も考えていただきたいなと思っております。この会議に入らせていただいて、中身と名称とちょっと違ってきているのではないかなと思っております。</p> <p>それと、アンケートの中からは、こういう問題について相談した先として民生委員はゼロでした。今後の支援として民生委員・児童委員の活動を活発化するというのも3でした。</p> <p>我々もいろんな相談事に乗っており、0歳から上は無量大ですが、あらゆる問題について寄り添った活動をさせていただいているのですが、小中学校の子どもさんについては、学校からいろんな情報をいただいたりして動けるのですが、それ以上の年齢の方については、なかなか情報が入ってこないというのが問題だと思います。</p> <p>それとですね、1つお願いがあるのですが、これだけの資料をこの短期間で、ここで、この場でお話を聞かせてもらう、協議する。結論は出ないとしても、ちょっと無理があるのではないかなと思えます。</p> <p>昨日、資料が郵送されてきたのですが、昨日は、私は社会福祉協議会、社協の評議委員会に出席してまして、それが終わってから、民生委員・児童委員協議会の役員会に出席して帰宅したのが、もう6時過ぎだったのですけれど、この資料が届いていました。</p> <p>今日の会議のために、この資料を、ちょっと目を通しておいてくれという内容のことだったのですが、それをもうちょっと時間をいただけないかなと思えます。一晩ではちょっと難しいのではないかなということをお願いしたいと思えます。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p>
事務局	<p>まず、対象年齢のところの御意見をいただきましたけれど</p>

<p>飯田会長</p>	<p>も、こちらについては、もともとは義務教育以降 39 歳までということで、39 歳で切れるというわけではなくそこで関わっている人は継続ということも視野に入った計画とはなっております。そこは高齢化も含めて、あとはどうしていくのかというところも、ひとつの観点があるかなと思っております。ただ、スタートしたときには、中学卒業後から 39 歳までというところでスタートしてきました制度でございます。</p> <p>あと、資料のほうですが、大変申し訳ございません。この連休等で、着いたのが昨日ということで、そこについては、ぜひできるだけ御覧いただけますように、郵送のほうをさせていただきたいと考えてございますのでよろしく願いいたします</p> <p>ありがとうございます。ほかに、御意見いただける委員の方はいらっしゃいますか。</p> <p>はい、お願いいたします。</p>
<p>山本委員</p>	<p>さっきと同じことを言うかもしれないのですが、例えば、基本方針のところでもそうなのですが、確実に情報が届けられるように、SNSを活用するというのがあります。このSNSを活用してというのが、限界があるのではないかと思うのです。</p> <p>やはり、届けるように行動するということがどうなのかという。例えば、(2) 本人や家族に有効な情報発信というところもそうですが、何かハードルを下げるようなメッセージの発信と書いてあります。これはいくら下げたところで、やっぱり対面でしか、こういうことというのはなかなか伝わらないと思います。だから、よく発信という言葉が出るのですが、発信しても届かないことが課題なのじゃないかなと思うので、その構造をどうするかというのが、明確にならないと絵に描いた餅になってしまいます。</p> <p>でも、届いてないというところが課題だから、一歩先に行こうと思えば、アウトリーチでいくとか、いろんな情報から動くとか、そういうことをしていかないと、この課題が解決しないのではないかなと思います。</p> <p>それともうひとつは、先ほどのアンケートにもあったのですが、子ども、若者が自由に行けて過ごせる居場所の提供が欲しいということは、アンケートでも出ていました。</p>

<p>飯田会長</p>	<p>この具体的な場所、居場所というのは、何か会議的な居場所になっているのではないかと思います。皆さん御存じないかもしれませんが、川崎市に「子ども夢パーク」というのがあります。この間、テレビの番組でもやっていたけれど、その「子ども夢パーク」的なものが、枚方にはないのではないのかなと思います。</p> <p>「子ども夢パーク」は公設民営なのですが、工場跡地を自然と触れ合いながら、泥んこ遊びをしながらというところなのですが、そういうところが僕がイメージする居場所です。何かここでおっしゃっている居場所というものの具体が見えないのが、少し気になります。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今の御意見について、御回答いただけますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>1つ目の情報発信だけではなくて、情報が届いていない方にいかに届けていくかということですが、38 ページに記載している部分になるのですが、山本委員もご存じのように、義務教育におきましては、スクールソーシャルワーカーを配置しております。昨年度からそのスクールソーシャルワーカーの配置を充実させていただいているところです。今ワーカーに関しましては、その充実させたことに伴って、直接的に各御家庭のほうにも入らせていただくことをスタートしているところでございます。</p> <p>情報が届いていないという状況の方に、また困り感がない方にどう動いていくかというのは本当に難しいところがありますが、そういう実際に、学校の先生じゃない立場の人間が、各御家庭のほうに行くというアウトリーチの部分を強化していきたいと思います。</p> <p>これは充実させたところですので、次期計画についても充実させていきたいと考えております。</p> <p>居場所の部分ですけれども、青少年センターのほうで、「ひらぼ」というひきこもりの方の居場所も作っています。</p> <p>本市のほうで、子どもの居場所づくりということで、子ども食堂というものを開いています。今、山本委員がおっしゃったようなイメージの公設民営の居場所というのは、枚方市のほうに今はなくて、この計画の中でもそこまでの記載はないのです。</p>

<p>荒委員</p>	<p>けれども、そのような多様な居場所というか、その方々にとって来やすい場所という、多様な在り方の居場所というのをこれから増やしていけたらいいと考えております。具体的なところまではありませんが、一人ひとりに行きやすい場所というのを、今後作っていきたいと思っております。</p> <p>何度もすみません。今の居場所づくりのお話なのですが、各地域、校区、そういうところでも居場所づくりに力を入れていただきたいと思います。</p> <p>今、土曜日に、小学校でいきいき広場というのをやっております。そういうものをもっと充実していただきたい。</p> <p>それと、子ども食堂ですが、子ども食堂のイメージとして市民の皆さんが持っておられるのは、経済的に厳しいお宅の子どもさん、家族の方が行くところだというお考えを持っている方が多いです。</p> <p>それと、子ども食堂も開催されているところが減ってきていないですか。私のところもコロナの関係で、ずっとストップしたままなのですが、そういうことで、子ども食堂になぜこだわっておられるのか、ちょっとその辺が、私は疑問に思います。それは、子どもさんの居場所になっているのかなど。</p> <p>先日も、ちょっと地域で話をしたのですが、子どもさんを土曜なり日曜なり、集会場とかをお借りして、ちょっと勉強のサポートをしていこう、宿題を持ってきていただいて、そこで宿題をしてもらおうということで、分からないところがあったら、子どもさんに指導するということです。それにはやはり教育関係に関わった方がおられたらいいなとか、そういう子どもの居場所づくりというのは、構想として話しているいます。</p> <p>なぜ、子ども食堂にこだわるのか、ちょっとその辺が私はちょっと疑問に思っております。</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございました。 お答えをお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ただいま指摘いただきましたように、子どもの居場所づくりということで、枚方市では子ども食堂をされているところに対して、補助金を出しています。</p> <p>言っていたいた、各校区に1か所ずつということで、目標</p>



	<p>としてはかなり遠いですが、全ての子どもが身近に行けるということで、各小学校区に1か所ずつと考えています。</p> <p>今、御指摘いただきましたように、やはりイメージとして、経済的に苦しいお子さんが行くというようなところがあります。そこは払拭して、どの子どもさんも、経済的な面だけではなくて、例えば、夜に1人である子どもさんなどいろんな子どもさんがいると思うので、子どもの第3の居場所として来ていただけたらなというように、周知をしているところですが、今おっしゃっていただいたとおり、なかなかこのイメージの払拭ができていないところではあります。そこは周知啓発を図るようにはしていきたいと思っています。</p> <p>今、子ども食堂を広げていこうとしていますが、今言っていたように、子ども食堂というのは料理を作らないといけないので、学習もというのはハードルが高くなってしまいます。こういう勉強をサポートしていただけるような居場所というのあればよいかと考えておりますので、そういう子どもの居場所というところについての在り方というのを、今後きっちり整理して、できる部分を考えていければと思っています。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。子どもが生活の中で行きやすくなる場所というところで、貴重な御意見をいただいたのかなというふうに思います。</p> <p>ほかの委員の方は、どうでしょうか。</p>
池田委員	<p>もともとのアンケートの結果を見ましても、不登校が発端になっている。その不登校も中学校の時が発端になっている。ということであれば、メリハリをつけて、中学校の不登校に対して何ができるのか。先ほどから出ていますが、居場所づくりもこういうところに特化して、目標と言っていましたけれど、地域の校区ごとに何かそういうのを作って、学校と連携してやっていただく。</p> <p>入り口を塞がないと、高止まりというか、先ほどから出ていますけれど、恐らく減っていないですよ。どんどん供給されていると思うのです。</p> <p>出口のところは、我々ハローワークが就労支援なので、そのテーブルに乗っていただいた方は、本当に皆さんが思われる以上に多種多様な職種がありますから、正社員はそんなにハー</p>



	<p>ドルが高いわけじゃないので、ここに乘ってさえいただければ、出口は何とかなる。</p> <p>例えば、供給されている、供給という言い方がいいのかどうかは分かりませんが、やっぱりこのアンケート結果とか分析の中で、問題がある程度、中学校のひきこもりから端を発して、その後長期化に向かっているというようなところがはっきりしているのであれば、ここをちょっとピンポイントというか、強力に支援体制を構築することが必要だと思います。</p> <p>やはり分かりやすい形で発信しないと、居場所と言いましても、ちょっとふわふわして、何の集まりかも分からないし、どこが経営しているのかも分からない。</p> <p>もっとハードルを下げて、地域に皆さんが交流できるようなところと、あと研修を受けられた若い方、そういう悩みの相談をしていただけるようなそういう方がおられるような感じで、特別視されないような場所を、中学校ごとに作ってあげるとか、もっと具体性を持たせて、今回提案されてはいかがかなと思います。これは意見ですけどもよろしく願いいたします。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>御発言いただいてない先生方に少しお話をいただけたらと思うのですけれども。では、栗村委員、お願いします。</p>
栗村委員	<p>感想みたいな感じになりますが、私自身、中学生と小学生の子どもが3人いるのですけれども、まず、枚方市がこの取組をしているというのを、小学生とか、その段階から知ってもらえたら、今、中学生でひきこもっているお子さんがおられる方がいるのですけれども、その方も楽になっていたのかなと思います。</p> <p>本当に必要な人に情報を届けられてないというか、知られていないというのが現状じゃないかなと思います。いろいろ数字が出てきてはいますけれども、実際の数ではない、たまたまいろんな方から教えてもらって知った方のみの数字かなと思っています。</p> <p>情報をもっといろんな人に、分かりやすく届けてもらえたら、一番ありがたいなと思います。それとネーミングの問題というか、やっぱり悩んでいる御家庭の方に、「ひきこもり」とかそういうワードは結構心にくるというか、ぐっと刺さり過ぎ</p>

るワードだと思います。

取組としては、いろいろされているなどは思うのですが、例えば、先ほどおっしゃられたように、子ども食堂であるとか、イメージの払拭であるとか、もともとの設定自体がよくないのかなと思います。確かに、困っているおうちの子どもが使えるという一定のイメージがあるのですが、そうではなくいろんな子どもがそこに行って、お母さんとかお父さんとか「今日、行っていいよ」というような御家庭の子も参加できたら、割とイメージアップにもつながると思います。子ども食堂に行っているというのを、見られるのも嫌がる子だっていると思うのです。その目も気にならなければ、利用率も上がったりもするし、いろんな人とコミュニケーションを図れるということで、孤立感というものがなくなるのではないかなとは思っています。

また、まずひきこもりにつながる要素として、いわゆるグレーゾーンの子どももいます。変な言い方をしますと、見た目も普通だし、何も困り事がないように見える子でも、やはりたくさん人がいる前だと発言ができなくなったり、いろんな人の仕草が気になって、勉強どころではなくなることもあったりします。それで、支援のほうで、授業を受けるということもあります。

そういうグレーゾーンの子は、割と何かつまずきがあるとひきこもりにつながりやすいというものもあると思うので、いろんな方が、発達障害の人に対しての理解を深めていただくような講演とか、そういうものがあればよいと思います。名前に発達障害という「障害」という言葉が付いてしまっているのが、あまりイメージはよくないのですが、こんな人もいるんだな、あんな人もいるんだなというのを、皆様に理解していただけたら、ひきこもりに対してのイメージだとか、そういったものもできるのかなとも思います。この会議の場ではふさわしくはないですが、もっと個々を尊重して、ひきこもっているのは、別にもしかしたら問題ではないかもしれない。その人自身が、心の安心であったり、その場所は安全だと思っているのであれば、それは問題ではないかもしれないので、本当に情報を求めている人だけと言っては変な感じですが、情報を求めている人に届けられるように、早期からの周知をお願いできたらと思います。

<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>いくつか本当に貴重な御意見をいただいたのではないかと思います。ありがとうございます。</p> <p>では、野澤委員お願いいたします。</p>
<p>野澤委員</p>	<p>マイクを使わせていただいてありがとうございます。今まで、なかなか聞こえにくかったので、ありがとうございます。</p> <p>それから、この短期間で、これだけの資料を調査してまとめて資料にするというのは、大変だったろうなというふうに、思いました。</p> <p>この資料の中で、枚方市の不登校が小学校と中学校を合わせて、800人近く出ていますね。1つの学校がまるまるないというようなもので、大変な時期にきています。</p> <p>不登校というのは、登校拒否という時代からあって、30年近くなっています。ひきこもりの年齢がだんだん高くなっていっています。だから、もっと私たちは、危機感をもって対応していかないといけないのではないかなと思います。</p> <p>この800人ですが、こういう社会的な状況とか、教育環境とか、家庭環境とか諸々のことを考えて、また友達関係、遊びの内容とかを考えると、減ることはまずないのではないかと考えています。子どもは減っているのに、不登校は増えるというような、おかしい状況が出てくるのではないかなと思うのです。</p> <p>不登校とかひきこもりというのも、先ほどちょっとお話が出ていましたけれども、数じゃなくて、やっぱりポジティブに捉えて、大人が対応する、そういうところから子どもに接していかないといけないのではないかなと思うのです。</p> <p>だから、そういう意識、危機感をもって、接することによって、少し子どもたちのアプローチの仕方も変わってくるのではないかなと思います。例えば、不登校だったけれど、元気に学校へ行きだしたよとかというサクセスストーリーとか、ひきこもっていたけれども、こういうことで、こういう機関で教えてもらって、こういうことを多くの人としゃべって元気になって、何か今は仕事を始めたらしいよとかという、サクセスストーリーをホームページとかに載せてもらって、SNSでも流すとか、明るい材料をほんと発信していけば、子どもは飛び付くと思うのです。家にこもって、いろいろな情報を探していま</p>

すから。

それから、今はもう携帯電話は、災害とか、緊急連絡の時のために持たせています。10年、20年前には、持たせてはいけないというように、学校も指導されておられたと思うのですが、いろいろと変わってきました。

それから、ゲームもしてはだめだとか、目が悪くなるよとかと言っていたのが、今はゲームもeスポーツなんか、世界大会をやっているのですよね。ゲームの高等学校もできています。それから、やっぱりN高校、ネット通学、ああいう民間ですとか、それからリアルな学校も、もちろんありますけれど、こういうところの状況が、どんどん変わってきているから、私たち大人のほうも変わっていかないといけないのではないかなと思います。

それから、もうひとつは、この調査の中で、どういうことをしてほしいかというのが、幾つか設問の中で出ています。高等学校に行ったら、それをどういうふうにつないでいくかの問題があるとか出ていますが、教育関係、それから福祉のほう、ボランティアの数はすごいのです。例えば、PTAのそれぞれ組織があります。子ども会があります。警察でしたら、青少年指導員の方、それを合わせたらすごい数になります。皆さんは20年、30年と、長年やっておられます。

だから、例えば、むちゃくちゃな提案かも知れませんが、子ども1人について大人2人ぐらいが関わって、その人が、例えば18歳まで、成人するまでとか、学校に行けるようになるまでとか、ひきこもりが解決するまでとかいうように、その子にずっと寄り添っていける、時間がかかったら切れるのではなくて、そういうのは国全体で考えないといけない問題かも知れませんが、自治体で考えられるところはないのかを考えていただきたいなというふうに思うのです。

それから、私の団体は、訪問型の子育て支援をしている団体なのですが、私が担当している中学1年生の女の子がいる家庭で、4月終わりぐらいから全く今は、私は訪問していません。これは、中1の女の子が不登校になったからなのです。原因は家族がコロナに罹って入学式に行けなくて、1週間後に行ったら、もう友達関係が出来上がっていて、はみ出したというので、疎外感を感じて行けなくなったのです。その後は、フリースクールに行っているらしいです。

	<p>学校関係の働きかけというのは、担任の先生と、学年主任の方とお見えになったということなのですが、担任が男性で学年主任が女性だったらいいのですけれど、男性の教師を見て、自室にこもって話もしないということで、今は学年主任の先生がお電話をしてくださったり、訪問してくださったりしているようです。</p> <p>そういうことで、非常に難しいところですが、私はその子をよく知っているから、絶対大丈夫、行けるようになるからと言っています。私自身も信じていますし、その子にもそういうふうなことを言っているのですけれども、ボランティアも一緒に連れて行って、アルバイトをさせようと思っています。</p> <p>それから、その子は警察犬の指導者になりたいということだったので、今度、河内長野のほうに犬の学校、警察学校があるらしいので、そこに1回見学に行こうかという話でもしています。</p> <p>先日お母さんのほうから、ちょっと避難所になってもらえないだろうかということで、御連絡がありました。いいですよということで、私は喜んでいます。そのことをお話できるということで喜んでいる状態なのですけれども、登校できるようになるのではないかというふうに、私は思っています。</p> <p>長くなりましたが、以上です。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>一旦、皆さんに御発言いただいたかと思うのですけれども、もうちょっとお話ししたいということがおありの方はいらっしゃいますか。</p> <p>では、副会長もお話をお願いします。</p>
渡辺副会長	<p>時間は、よろしいですか。過ぎていきますので、いくつもあったのですけれど、時間の都合で1点だけお話ししたいと思います。</p> <p>私は、交野・枚方地区の保護司会の代表で来ています。保護司は、10年近くやっているのですけれども、個人情報や、秘密のことが結構多く、なかなか発言しにくいです。</p> <p>実際に、私が今まで持ってきたケース、あるいは関わったケース、やはり対象者が本人、そしてまた保護者、両方ともなかなか表に自分のことを出してほしくない、秘密にしてほしい</p>

というのが結構多いのです。

実際に、保護司が関わっているのは、保護観察の期間中だけです。長くて3年ちょっとです、短かったら3か月です。その間だけですから、それが終われば、もう終わりです。個人的に電話等につながっている人もいますけれども、ほとんど切れてしまいます。その後はどうなるかと言ったら、分からないのです。そういう状況もあります。

実際に保護観察中に短い期間ですけれど関わっても、結局仕事ができるぐらいよくなってきたとして、ハローワークに探しに行きます。そこで自分のことは内緒にしてください。親も内緒にします。結局、そこで仕事に行ってもトラブルを起こして、また辞めてしまう。そういうケースが結構あるのです。そういうところは、親のほうも高齢化していますので、70、80歳です。高齢化してくるということで、親のほうも考えがたくなってきます。本人も、殻に閉じこもってしまう。ますます、悪循環でひどくなっているという現状は、とっても悲しいですけれど、あります。

もちろん中には、一生懸命社会に出て社会で活躍している、人もいっぱいいます。いますが、やはり印象に残るのは、そういうちょっと悲しいなというケースです。こういうときに、先ほど話に出ていましたけれども、いろいろ行政が発信しても、なかなか伝わらない。伝わらないのは確かなのです。でも、伝わらないけれども、それを何とか伝えるような方向でいろいろ模索していかないとだめだと思うのですね。

それから、一番これがいいなと思っているのが、家族会ですね。これはアンケートにも、いろいろ出ていました。家族会というのは、お互いに同じような立場の人が、互いに励まし合いながら、そして寄り添って、心を落ち着かせて、次の段階に進んでいける。

それがまた子どものほうにも、いい影響を及ぼして、長い目で見たときには、これは子どもにも改善の方向になっていくというふうになる。これは、私は本当にいいことだと思うのです。実際に、家族会の横のつながりというのも大事にして、横でお互いに同じような環境のところで励まし合ったり、そういうところを、もっともっと発展させていかないといけないと思います。

それで、同じようなものが、中学校の段階でも、不登校親の

	<p>会というのを、結構、作っているところもあると思います。ここでも、保護者が集まって、そして情報交換して励まし合って、子どもの育ちを見ていくというところなんです。本当に、その中でよくなっていった、すごく改善していったケースも、私はいっぱい見えています。それが大事だなと思います。その方法というのが、やっぱり、いろいろ課題があると思います。これからもそれをやっていかないといけないのです。</p> <p>いろいろほかにも、いっぱいあったのですが、すみませんが、時間の都合でこれだけにしておきます。ありがとうございます。</p>
飯田会長	<p>今日の会議の後、また御意見があったら、事務局のほうにも連絡させていただいたら、構わないのですよね。</p>
事務局	<p>はい。</p>
飯田会長	<p>また、いろいろご意見等がありましたら、ぜひ連絡をと思います。</p> <p>1点、名称の件はどういたしましょうか。第2期でよろしいですか。1期の改定版で、今回、2期という名称で進めても大丈夫でしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>では、お時間になりましたので、終わらないといけないのですが、すごくたくさんの貴重な御意見をいただきました。サクセスストーリーの積み上げみたいなことというのも、例えば、コラムに書くとか、そんなことがあってもいいのかなと思いました。</p> <p>伺っている中で、中学、ひきこもりという言葉がキーワードであるのかなというようなことであったり、発達障害やグレーゾーンの方とか、ひきこもりの背景には、発達障害とか精神疾患がやっぱり多いですので、より早期にということで学校との連携というと、すごく広がってしまいますが、「川崎子ども夢パーク」や、言っていたように、ひきこもりという名称がどうかという意見もやはり確かにそれはそうだと思うので、中学生とか子どものもっと低年齢の居場所としては、例えば、何とか教室みたいな感じで遊びをベースにして、そこに参加しやすいようなものを取り入れて参加するとか、そういうよ</p>



事務局	<p>うな何か工夫があるのかなということを考えながら聞かせていただきました。</p> <p>支援センターや、相談機関の周知に関しては、例えば学校で、困っておられる不登校の子の親御さんに相談できるようだったら、学校のほうから、こういうところもあるよとっていただくようお願いするとか、例えばですけど、何かそういうちょっと具体的なことを考えないと、たくさん意見をいただいたようにすごく抽象的なところでは、なかなか進まないのかなとことを考えながら聞かせていただきました。</p> <p>では、今日は貴重な御意見をたくさんいただいたと思いますので、本当にありがとうございました。</p> <p>そして、今後の進め方としましては、まず事務局において本日の皆様の御意見を整理させていただいて、次回の審議では、本協議会として、市長に答申する計画案という形でまとめることになると思うのですけれども、そのような進め方でよろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、御了承いただいたという形で、今後も、委員の皆様から引き続き御意見をいただきながら、審議を進めていきたいと思っておりますので、皆様、最後までどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>そして、次に、案件「その他」としまして、事務局から、最後何かございましたらお願いします。</p> <p>本日の資料等につきまして、御意見等、御不明点がございましたら、恐れ入りますが、10月4日火曜日までに、メールや電話などによりまして、子ども青少年政策課まで御連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、本日、配布しました資料につきましては、引き続きの御審議に御利用いただくため、机の上にそのままにしておいていただけましたら、引き続きバインダーに保管させていただきます。また、資料を持ち帰られる場合は、封筒を御用意させていただいておりますので、事務局までお申し付けください。</p> <p>また、本日の資料につきましては、速やかにホームページで公表する予定としておりますが、会議録につきましては、事務</p>
-----	--



飯田会長	<p>局で案を作成したのち、皆様にメールまたは郵送でお送りさせていただきます。皆様に御確認いただき、その結果を会長と調整し、決定したものをホームページで公表していきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>なお、次回の審議会の日程は、11月4日に開催させていただきたいと考えております。また、通知については、後日発送させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>では、これをもちまして、令和4年度第2回の青少年問題協議会を終了いたします。</p> <p>御意見などありましたら、また連絡いただけたらと思います。皆様、本日は、お疲れさまでした。ありがとうございました。</p>
------	---